

市町村名		多良間村					
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	1-③ 多良間村の自然を活かした観光コンテンツ開発事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(12)-ア 観光リゾート産業の振興		
担当部課名	観光振興課	事業実施 年度	令和 3	～令和 5	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)	
事業内容	1人当たりの村民所得が県内でも低位にある多良間村において、滞在型観光を推進し、誘客促進及び島内消費額の増加を図るため、地理的特性や地域資源を生かした、体験型観光コンテンツを開発する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中 の予算額 ・執行額 【単位:千円】		R3年度	R4年度	R5年度	～〇年度	合計	
	A. 予算現額	13,648	7,303	8,000		28,951	
	B. 執行済額	11,278	5,606	3,975		20,859	
	うち 交付金充当額	9,022	4,484	3,165		16,671	
	執行率(%) (B/A)	82.6%	76.8%	49.7%	#DIV/0!	72.0%	
	執行状況の説明	持続可能な観光ガイド10名育成業務にあたり、島内でコーディネーターの知見を有する人材が確保できず、当該業務を削除することにより委託代金の減額した。					
事業期間中 の活動目標	活動目標(指標)		達成状況				
				R3年度	R4年度	R5年度	〇年度
	観光コンテンツ開発、島の自然を活かした 観光コンテンツ2つ創出	目 標	2	2	0		
		実 績	3	2	0		
	(1)観光PR動画制作 1件 (2)ガイド・コーディネータ育成 10名〃	目 標	0	0	2		
		実 績	0	0	1		
		目 標					
		実 績					
事業期間中 の成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
				R3年度	R4年度	R5年度	〇年度
	観光PR動画を作成することによって観光客 の増加が見込まれる。	目 標	0	0	1		
		実 績	0	0	1		
	ガイド・コーディネーターを育成することによ り、本村の特有の体験することができる。	目 標	2	2	2		
		実 績	15	3	1		

事業完了後の取り組み							
成果目標(指標)	達成／進捗状況						
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	年度 目標/発現年度	
☒ 中期にわたる事業効果 ☐ 後年度に発現する事業効果							
観光PR動画を作成することによって観光客の増加が見込まれる。	目 標	0	0	1			
	実 績	0	0	10			
ガイド・コーディネーターを育成することにより、本村の特有の体験することができる。	目 標	240	240	240			
	実 績	44	248	271			
開発されたコンテンツ(商品)を活用しての観光来島者への黒糖、豆腐作り等体験する 200名	目 標				200		
	実 績				0		
事業完了後の成果目標	【R3年度】 ・「文化経済の循環」をキーワードに、現地にてキャンプ用品一式のレンタルを行う「手ぶらCamp」、文化的料理「ジャンキムヌ」の体験、アウトドアギアを活用し島の自然を体験する「島版BBQ」を開発。環境に対する責任をもち、環境倫理プログラムの基礎を理解する3日間の「トレーナーコース」を開催。12名のトレーナー(ガイド)が認定された。 開発中コンテンツを体験していただくこと、ニーズに合わせたコンテンツにすることを目的に「ジャンキムヌ体験」「島版BBQ体験」「集落散策」を実施した。参加者は、5名(男性4名、女性1名)						
	状況説明	【R4年度】 ・「薬草採集・調理体験プログラム」、「シュノーケリング・とうぶりゆんたくプログラム」の2つの観光コンテンツを開発し、学生・企業を招致してモニターを実施。 LNT(Leave No Trace)普及啓発活動として観光客向け動画を作成。村民向け講習会を実施。 アウトドア先進地視察にて新潟県スノーピークキャンプ場視察、長野県栄村での野外プログラム体験を実施。					
		【R5年度】 ・本村伝統行事である「八月踊り」「スツウブナカ」や「たらま島一周マラソン大会」、夏場シーズン中の自然風風景や農業・牧畜の撮影を行いPR動画を作成し、作成した動画は島外での宣伝、各種イベント等で活用している。					
		【R6年度】 R5年度においてガイドコーディネーターを育成し黒糖・豆腐作り等の体験者を創出する予定だったが、R5年度ではガイド育成が出来なかったため、本年度目標は成果を上げられなかった。					

狀況說明

【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)	【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)
【R3年度】 ・アウトドア体験をスポットの魅力と難点を整理し、改めて島の自然の価値を再確認することができたと同時に、「シャワーが温水ではない」「水道はあるが炊事の洗い物がしにくい」「ゴミや洗剤がそのまま流れてしまう」などのハード面の課題があり、観光客が安心・安全にアウトドアを楽しむためにこれらの課題解決に取り組んでいく必要がある。 ・モニターツアーを実施し、参加者の満足度も高いことから、島民と連携しコンテンツのブラッシュアップを図ると共に、新たなコンテンツ開発、webサイトでの情報発信など、来訪意欲のある方へ効果的な情報発信、提供を行なっていく必要がある。 ・安心・安全にアクティビティを実施するための体制づくりを行うため、コンテンツ提供者が先進地から運営手法について学ぶ必要がある。 ・LNTトレーナーが定期的に学び続けられる研修会実施、島民、観光客に対して、環境へのインパクトを最小限に抑え、島の自然を守る、豊かな自然を維持するための行動を普及・啓発を行うことも必要不可欠である。	【R3年度】 ・島独自の「トゥブリ」(多良間の言葉で「海へと続く小道」を意味する)を活用し、島の遊びと運動させたメニューを開発し自然と触れ合う体験を多く取り入れたコンテンツ開発を行う。 ・12名のLNTトレーナーが誕生したが、指導力においては継続的な学びの機会が必要であることから、定期的に学習の機会を送油つし、ビジターへのレクチャースキルをあげていく。
【R4年度】 ・コンテンツ開発では野草の採集・発見方法や調理する方法・調理器具・シュノーケル機材の扱いや海での注意事項など、お客様へ指導・レクチャーする内容についてどうすれば分かりやすく、簡単に出来るかが課題となった。また野草採集については島の自然環境にダメージを与えないよう分散して採集する必要がある、今後も野草の自生状況について注意していかなければならない。 ・LNT普及啓発活動では、前年度で村民から12人のLNTトレーナーが誕生したが、村内での認知度がまだまだ低く今後の継続的な推進・PRが必要である。 ・先進地視察では大きな倉庫や私有地を持つスノーピークだからこそ出来るレンタル用品運用や顧客対応があり、多良間島でのレンタル運用の見直しに直接活用できないノウハウも多くあった。栄村野外プログラムでは自然を活用した観光体験と自然保護の理念については学びが多かったが、多良間島との気候の違いもあり、多良間独自の特別な田舎体験・自然体験を見つめ直し、「島の常識」を体験コンテンツとして活用していくための魅力再発見が必要であると感じた。 ・モニターの実施 ・開発中のコンテンツをモニターに体験していただくことで、課題を洗い出しニーズにマッチしたコンテンツしていくことを目的に「シュノーケリング & トゥブリゆんたくプログラム」実施した。 ・大学の教育学部の教授・学生の協力のもと、教育実習者としての視点からアウトドア体験を通して多良間村での若者向けコンテンツ造成・発展について考えてもらい、プレゼンを発表した。 ・進化型組織実現に向け自主性、セルフマネジメント、全体性を意識して研修活動に取り組む(株)TATに協力していただき、沖縄離島という特殊な地域環境で若手社員の研修活動の優位性について考える。	【R4年度】 ・野草を摂取については、島の自然環境にダメージを与えないよう分散することや根こそぎ接種しないことの注意が重要であると更に、食べられる野菜の種類と調理方法、自生状況の研究を重ねる必要がある。 ・LNTのダメージを残さず自然を楽しむための7原則をトレーナーが理解し、実践できるか今後の検討課題と思われる。 ・多良間独自の特別な田舎体験・自然体験を見つめ直し、「島の常識」を体験コンテンツとして活用していくための魅力再発見が必要であり、いかにして観光客誘致 ・離島なのでシュノーケリング機材の確保が難しい、シュノーケリング経験・機材の準備や扱い、緊急時対応について知識確認とレクチャーをおこなう必要がある。 ・事前にインターネットで得られる情報が少なく、多良間島を知るきっかけや取掛かりが少ないことが難点である。 ・訪問意欲のある方へ効果的な情報発信、提供を行っていく必要がある。
【R5年度】 ・これまで守ってきた「美しい自然」と伝統行事などの本村の魅力を島内外にPRしてゆくため観光PRの動画の作成と発信を行い、島民は生まれ育った島への愛情・観光への理解を深め、観光客は多良間観光への足掛かりとなるような島内外両方に観光意識を高める動画作成の取組の検証をおこなう。 ・体験ガイド、コーディネーター10名育成する予定だったが、教育人材の不足や人口減少等の理由より事業を廃止になった。	【R5年度】 ・観光客誘致に向けて村内外方面へ向けて観光PR動画を発信し、観光誘致に努める。 ・体験ガイド、コーディネーター育成し、ガイド・コーディネーターの質の向上と観光メニュー充実を図る。
【R6年度】 事業終了後のR6年度において、手ぶらCamp…82名、島版BBQ…30名、野草採集・調理体験プログラム16名、シュノーケリング・とうぶりゆんたくプログラムなどの成果実績を上げた。 各プログラムにおいてそれぞれLNT資格取得者が体験を提供し、自然を大切に体験を行うLNTの理念の普及にも貢献している。	【R6年度】 FMみやこ(毎週火曜日10時「ふしやぬふ多良間の十時ゆく」)におけるラジオ放送によって、プログラム利用者だけではなく、大衆に向けて多良間島での観光のあり方・自然を大切にしながら楽しむ方法など、LNTの理念に沿った情報や注意喚起の発信を行っている。
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)	
【R4年度】 ・島民と連携しコンテンツのブラッシュアップを図ると共に、新たなコンテンツ開発、webサイトでの情報発信など、来訪意欲のある方へ効果的な情報発信を実施。 ・安心・安全にアクティビティを実施するための体制づくりを行うための先進地視察。 ・LNTトレーナーが定期的に学び続けられる研修会実施 ・島民、観光客に対して、島の自然を守る、豊かな自然を維持するための行動を普及・啓発活動。 【R5年度】 ・観光PR動画1本 スツウプナカ・八月踊り・一周マラソン大会・ピンダアース大会・一周マラソン大会・村民運動会・ダイビング等本村の各行事を作成する。 ・ガイド・コーディネーターを育成 計10名 黒糖、豆腐、ぱなぱんびん・ちょま系(手織り)体験、シュノーケリング&ゆんたくモニター、三味線教室、ピンダ(山羊)決闘等 【R6年度】 ・本村伝統行事である「八月踊り」「スツウプナカ」や「たらま島一周マラソン大会」、夏場シーズン中の自然風景や農業・牧畜の撮影を行いPR動画	

を作成し、作成した動画は島外での宣伝、各種イベント(離島フェア、神奈川県川崎市で行われるはいさいFESTA(沖縄祭り))等で活用し、観光客の誘致を行い、多良間村の魅力を島外へ発信していきたい。

市町村名	多良間村						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	多良間中学校グラウンド舗装工事(外周路)				新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(9)-イ スポーツ環境の整備	
担当部課名	教育委員会		事業実施 年度	平成 29	令和 5	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(9)
事業内容	村民等の交流機会や運動機会の確保を図るため、ジョギングコースとして多良間中学校グラウンドの外周路を改修する。						
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		R5年度	○年度	○年度	○年度	合計	
	A. 予算現額	7,315				7,315	
	B. 執行済額	7,315				7,315	
	うち 交付金充当額	5,852				5,852	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	100.0%	
	執行状況の説明	当初の計画範囲内の予算執行であった。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			R5年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	外周路の舗装工事実施	目 標	工事の実施				
		実 績	工事の実施				
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			5年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	外周路の舗装工事の完了	目 標	工事の実施				
		実 績	工事の完了				
		目 標					
		実 績					

事業完了後の取り組み								
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況					
	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果		R6年度	○年度	○年度	○年度	○年度 目標/発現年度	
	施設の雨天後の使用状況		目 標	100.0%				
			実 績	100.0%				
			目 標					
			実 績					
状況説明	【R6年度】 ・村民のウォーキングやジョギングコース、また体育活動や健康増進のための快適な環境づくりにつながっている。 また雨天後の環境悪化でもグラウンドが使用できる状況である。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・							
【完了後】事業効果等の確認 （施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等）			【完了後】改善措置等の検討 （事業効果の更なる向上等）					
【6年度】 ・雨天後でも使用できる体育環境が整ったことで、快適なグラウンドの使用につながっている。また島外からのスポーツクラブ等の利用もあり、今後の活用に期待できる。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・			【6年度】 ・スポーツ教室の開催や村民の健康増進のための施設として、多くの住民に使用できる施設としての環境の整える。また学校との連携をしながら取り組んでいく。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・					
今後の取り組み方針 （関連・同種事業へのフィードバック等）								
【R6年度】 ・外周路の整備を完了することにより、雨天後でも使用できる体育環境の改善を行うことができ、今後も児童生徒や村民の健康増進につなげていく。また村内の陸上大会、運動会などその他スポーツ教室などの開催や島外からのスポーツクラブ等の使用、今後も引き続き総合的なグラウンドとしての機能の展開につなげていく。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・								